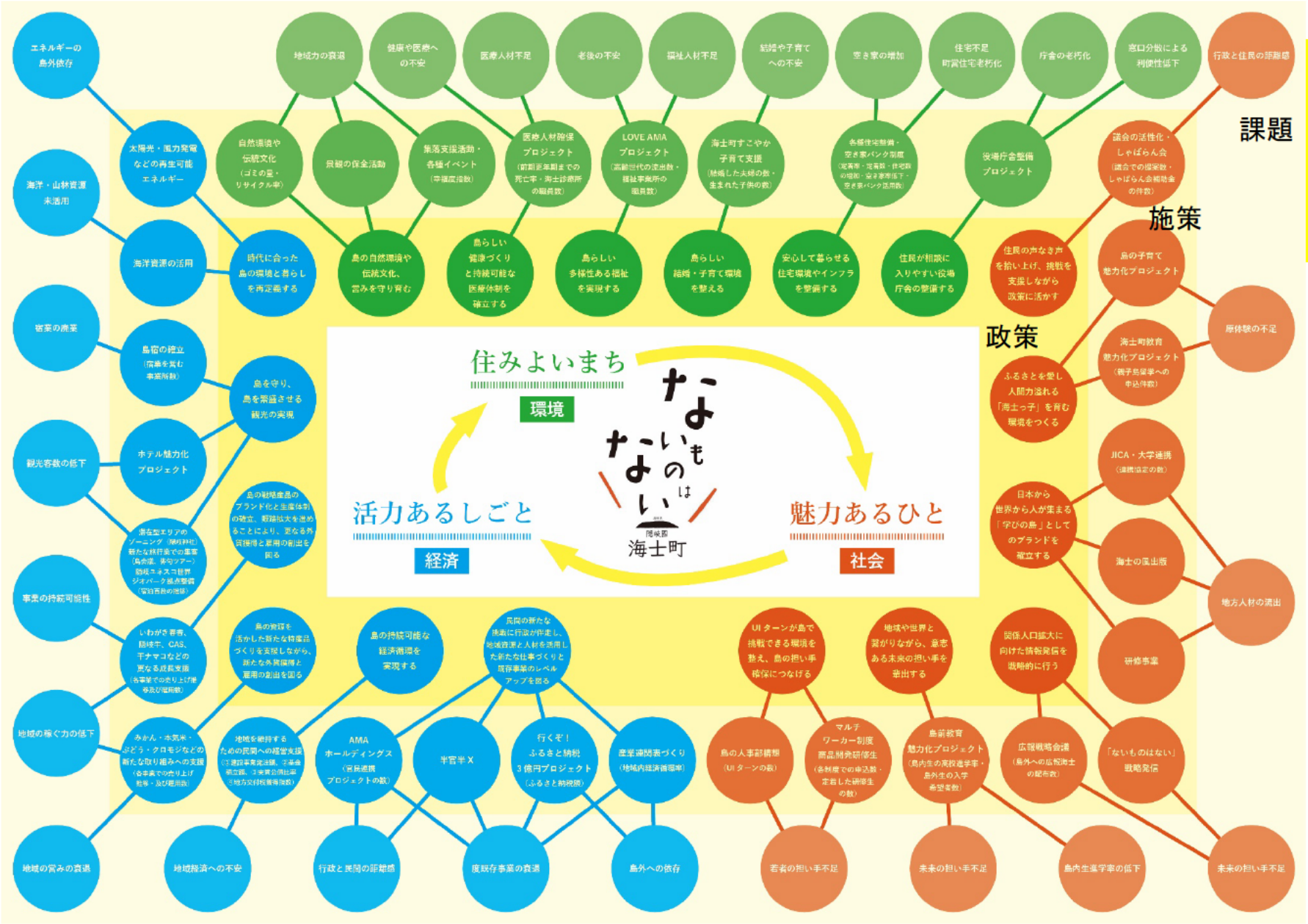
令和2年度　環境で地方を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
キックオフミーティング　発表資料

活動団体名：AMAホールディングス株式会社
活動地域　：島根県隠岐郡海士町

活動におけるテーマ・キャッチコピー
環境・経済・社会を同時に高める事業が
生まれ続ける仕組みづくり

地域循環共生圏の実現により目指す地域の姿



昨年度の取組の概要（仮説と実践、気づき）

当初予定していた取組

- 地域ビジョン策定・実施体制づくり
- 島の地域内経済循環の見える化と高める事業の推進
- 関係資本を活かし地域内経済循環を高める新たな電子通貨について学ぶ
- 島の環境資源循環の見える化
- 地域資本をまとめた海士町白書の制作準備
- 島まるごと採用情報の見える化

実践の中での気づき

- 様々なステークホルダーの巻きこみを意識したことで、今後の協力者を見つけることができた。
- 環境分野の基礎調査により、翌年度に行う調査項目の洗い出しができた。新たな調査を行なくても既存の調査結果が活用できそうだということもわかった。

実際に行った取組

- 地域ビジョン策定・実施体制づくり
- 島の地域内経済循環の見える化と高める事業の推進
- 関係資本を活かし地域内経済循環を高める新たな電子通貨について学ぶ
- 島の環境資源循環の見える化
  - 環境基礎調査
- 島まるごと採用情報の見える化
- （別事業）海士らしい幸福度調査の実施

事業のタネ３つ

- 事業の種の見える化（環境・経済・社会のリソース見える化）
  - 環境…基礎調査、経済…産業連関表、社会…幸福度調査
- 海士町のビジョン作成
  - 個人…ティール研修、地方…ないものはない、日本社会…地方分散シナリオ
- 事業化支援（人材・情報・資金）の仕組みづくり

昨年度の支援チーム派遣について

①支援チーム派遣によって解決したかった課題

- 環境・経済・社会を同時に高める事業が生まれ続ける仕組みづくり
- 地域の経営指標づくり
- 環境分野の基礎調査
- 自立分散を目指した個人・地域・日本社会を目指す際の専門的なアドバイス

②支援チーム派遣を活用して取り組んだ内容

- 共感型電子通貨eumoの社会実験
- 産業連関表作成後の活用議論の場づくり
- 地域の経営指標づくりのアドバイスサポート
- 地方分散シナリオの実現に向けた未来ビジョンづくりのための意見交換会
- ティール社会・組織化へのアドバイス
- 「ないものはない」グローカルロゴデザイン

③支援チーム派遣の成果

- ティール組織・地方分散シナリオなどそれぞれを達成するための基礎を学び、それをもとに議論の場を持つことができた。
- 経営指標づくりではなく、具体的な事業を生み出し続ける仕組みづくりが必要ではないかと考えるに至った。

④積み残した課題や新たな課題

- １）事業の種の見える化　２）ビジョン作成
  ３）事業化支援（人材・情報・資金）
  が連動する仕組みづくり
- 事業化支援のために、ふるさと納税を原資とする未来投資基金を設立する。そのために、ふるさと納税の獲得が重要になってくる。

今年度の取組と到達目標

今年度の取組

- 海士町資本白書の作成（事業の種の見える化）

　新たな事業を生み出したいと思った人が、誰でも事業の種を見つけられるために、海士町の環境・経済・社会の地域資本に関する調査をまとめた冊子、もしくは、地域資本が掲載されるシステムを制作する

- ビジョン作成

　「わがトコ・わがコト環境プロジェクト」…隠岐國学習センターと協働して、島の高校生や大人が一緒になって、自然も経済に配慮し持続可能な島であるためのビジョンを描き、事業を生み出す

　個人（ティール組織の知見蓄積、研修づくり）、地域（「ないものはない」のブラッシュアップ）、日本社会（地方分散シナリオ）それぞれの目指す姿・ビジョンをつくる

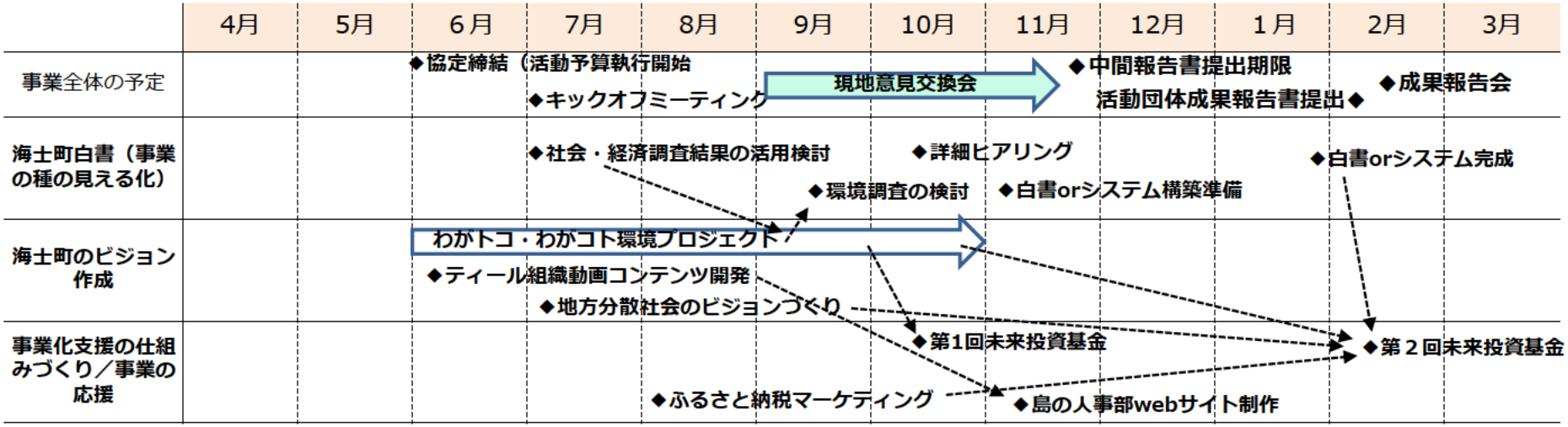
- 事業化支援の仕組みづくり／事業の応援

　人材：島の人事部…島にとって最適な採用と配置を行う　資金：未来投資基金…ふるさと納税を財源として未来への投資を行う　情報：ないものはないセンター：島内に存在する既に想いを持った人とともにプロジェクトを推進し、事業の種を生み出す

今年度の到達目標

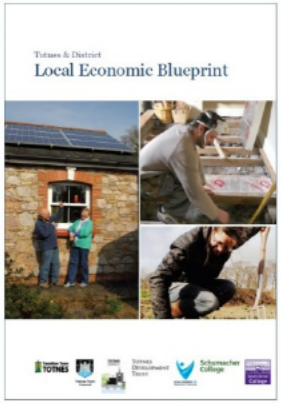
- 海士町資本白書もしくはシステム制作に必要な、データや情報の収集
- 幸福度（社会資本）、地域内経済循環（経済資本）の調査結果の活用を検討する
- 「わがトコ・わがコト環境プロジェクト」で地域のビジョンを描き、そこからプロジェクトを3～4件生み出し、そのために必要な環境資本が調査されている
- 生まれたプロジェクトのうち１～2件を未来投資基金で投資し、翌年度さらに拡大した事業になる
- 未来投資基金の財源であるふるさと納税のマーケティング活動を行い、2019年度比2倍に増額

今年度の年間スケジュール



新規に取り組む団体へ一言！

- 1年間やってみて、曼荼羅づくりや評価指標など抽象的なことを考えるだけでなく、現場に足を運んで具体的な施策をおこない、抽象と具体を行き来することが大事だと学びました。そして、個別の事業を生み出すだけでなく、事業が生まれ続ける仕組みづくりが大切だと考え、その準備を整えているところです。お互いに学び合っていきましょう！

こんなことを助けて欲しい！

- 事業の種の見える化（海士町白書）について、どのようなものであれば使いやすいツールになるのか？　事例やアイデアがあれば、教えていただきたいです。
（参考：イギリス・トットネス「地域経済の青写真」）